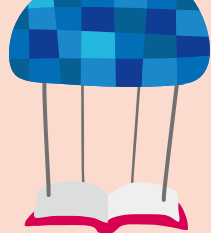




COM+S



P.2~3

### 絵本作家 長野ヒデ子さんに インタビュー

あなたが生まれてきたことは、素晴らしいこと  
～子どもから大人まで、みんなで絵本を楽しんで！～

P.4~5

### おすすめ作品紹介

# 世界ひろがる コムズの本棚

自分らしく生きる、を絵本から。

P.6~7

### 子どもと一緒に過ごす時間 おともに絵本はいかが？

各分野の専門家が語る、絵本の楽しみ方

P.8

### コムズに遊びに行こう！



子どもから大人まで、  
みんなで絵本を楽しんで！

あなたが  
生まれてきたことは、  
素晴らしいこと

長野 ヒデ子

写真・小幡崇

1941年、愛媛県生まれ。絵本作家。絵本創作に紙芝居、イラストレーションなどの創作の仕事やエッセイや翻訳も。代表的な作品に『とうさんかあさん』(石風社/絵本日本賞文部大臣賞受賞)『おかあさんがおかあさんになった日』(童心社/サンケイ児童出版文化賞受賞)、『せとうちたいこさん・デパートいきタイ』(童心社/日本絵本賞受賞)、紙芝居に『ねこのたいそう』(童心社)など。2021年9月に『かこさとし手作り紙芝居と私 原点はセツルメント時代』を出版。

『おかあさんがおかあさんになった日』を  
作ろうと思ったきっかけを教えてください。

デビュー作『とうさんかあさん』で賞をいただき、色んな出版社から次回作について声がかかりました。でも、次回作はできませんとお答えしていました。考えてもできないんですね。湧き出るものじゃないと本にできないと言われて、自分の中から湧き出るものは何だろうと思ったら、自分は「おかあさん」だから、「おかあさん」の絵本を書いてみようかなと思いました。

よく調べてみたら、子どもが生まれることをテーマにした本はたくさんあったけど、「おかあさんがおかあさんになる」ということをテーマにした本はなかったの。おかあさんも色々戸惑いながら、不安を抱えながら、あなたを

出産したんだよ、ということ伝えられるような本をつくってみたいと思いました。

出版してみると、まだ文字が読めない子どもたちまで、何度も繰り返し、繰り返し読んでくれて、なんでだろうと思っていろんな方に訊いてみたら、「自分がいかにして望まれて生まれてきたかが確認できると、生きる希望になる。あなたが生まれてきたことは素晴らしいのよというメッセージがこの本の中にあるから、繰り返し読むんだよ」と言われました。子どもたちが大好きな本ということで、たくさんの国でも翻訳されています(※日本人向けのアーサー・ピナードの英語版もあり)。

その後、『おとうさんがおとうさんになった日』という絵本も出版されました。

おとうさんは赤ちゃんも生まないし、おっぱいもでないし、難しかったです。自宅出産で書いてみたいと思いました。



「おとうさん」が休暇を取るところから始まるのが印象的でした。

おかあさんだけが頑張るのではなく、おとうさんも育児に参加する、というのをちゃんと入れた方が良くかなと思って入れました。当時はおとうさんが休暇を取って育児に参加する、というのは少ない頃だったので、「あの絵本を見せると休暇が取りやすくなりました」という声もあり、導入部分を入れてよかったなと思いました。

どのように取材をされて、作中の人物を作り上げていったのでしょうか？

出産に立ちあわせていただいたり、いろんな方にインタビューをさせていただいたりしました。取材した方の生まれた赤ちゃんとうだに付き合いがあります。たくさんのおとうさんに、「どうしておとうさんになったと思いますか?」と訊いたら、人さまさまな答えが返ってきました。とても楽しかったです。

赤ちゃんが生まれる日は、おにいちゃんがおにいちゃんになる日であって、おねえちゃんがおねえちゃんになる日だっていうのも伝えたいと思い、きょうだいがいる方が、「ああ、わたしはこうやっておねえちゃんになったんだ」ってわかっていいかなと思って、取材の中でぴったりに人に出会ったので、絵本に書こうかなと思いました。

絵本の魅力はなんですか？

絵本って子どもだけのものじゃなく、子どもにもわかる言葉で書いているから、子どもから大人まで楽しんでくれたらいいかなとすごく思います。



Pick Up



『おかあさんがおかあさんになった日』  
長野ヒデ子・作 童心社

おかあさんは、どうやっておかあさんになったのでしょうか。期待と不安のなかではじめての赤ちゃんを出産。病院での1日をあたたかく感動的に描く絵本です。赤ちゃんが生まれた日、おかあさんもまた、おかあさんになったのです…



『おとうさんがおとうさんになった日』  
長野ヒデ子・作 童心社

お休みを取り、お家へ帰るおとうさん。3人目の子どもを自宅出産で迎えます。おにいちゃん、おねえちゃんも、赤ちゃんが生まれるのを楽しみに待ちます。「おとうさんはいつおとうさんになったの?」と子どもたちにきかれて、おとうさんはあれこれ考えます。

- ①おばあちゃんがおばあさんになった日/長野 ヒデ子(作)/童心社
- ②とうさんかあさん/長野 ヒデ子(作)/石風社
- ③おつきさまひとつづつ/長野 ヒデ子(作)/童心社
- ④まんまん ぱっ!/長野 麻子(作)、長野 ヒデ子(絵)/童心社
- ⑤すっすっはっはっ こ・きゅ・う/長野 麻子(作)、長野 ヒデ子(絵)/童心社
- ⑥げんこつやまのたぬきさん/長野 ヒデ子(作)/のら書店
- ⑦狐/新美 南吉(作)、長野 ヒデ子(絵)/偕成社
- ⑧せとうちたいこさん デパートいきタイ/長野 ヒデ子(作)/童心社
- ⑨せとうちたいこさん ふじさんのぼりタイ/長野 ヒデ子(作)/童心社



絵本に対する思いをお聞かせください。

「せとうちたいこさん」シリーズの絵本は、『おかあさんがおかあさんになった日』から生まれたんですよ。出産の取材をさせてもらって、赤ちゃんは誰にも教わらず、自分で考えて、たいへんな産道を通って生まれてきて、すごいと思ったのね。子どもは、生まれながらにして、考える力とかいっぱいもっているの。でも、子どもの頭って、親の言うことも聞かないといけな、友達との折り合いもつけないといけな、宿題もやらないといけな、いっばいっばいになってしまうから、そんなことをとばらってあげられるような楽しい本を作ってあげたいなと思ってできたのが「せとうちたいこさん」の絵本です。たいこさんで、みんな元気になって、という気持ちで作りました。むずかしいことをわかりやすく、身体が元気になるような絵本を作りたいなと思うんです。

最後に読者の皆様にメッセージをお願いします。

コロナでみんなマスクをかけているけれど、心にまでマスクをかけてしまわないでね。みんな憂えている感じがするから、絵本なんてもっと楽しんでもらいたいと思いますよ。みんな元気で、コロナに負けず、楽しく頑張りたいと思います。



# おすすめ作品紹介



「女だから…」 「男だから…」にとらわれず、自分らしさを大切に育ってほしいー

そんな思いを込めて、男女共同参画の視点から選ぶ、おすすめの絵本をご紹介します。大人の方にも是非よんでほしいラインナップです。金子省子さん(愛媛大学 教育学部 教授)、渡部愛さん(絵本専門士)が推薦して下さった絵本の中から、一部をご紹介します。お子さんとの絵本の時間の参考に、そしてあなた自身の絵本との出会いに、ぜひご覧ください。

固定的役割分担



**いってらっしゃーい いってきまーす**  
神沢 利子(作)、林 明子(絵)  
福音館書店

なおちゃんのお母さんは会社にお勤めで、絵描きのお父さんは家でお仕事です。毎朝なおちゃんはお父さんと保育園に行き、帰りは仕事帰りのお母さんが迎えに来てくれます。なおちゃん目線で見た一日が描かれています。

固定的役割分担



**とうさんはタツノオトシゴ**  
エリック・カール(作)、佐野 洋子(訳)  
偕成社

トゲウオ、ティラピア、コモリウオ。海の中をのぞいてみると魚のお父さんたちが懸命に子育てをしています。お母さんから卵を預かったタツノオトシゴのお父さんも、子どもたちが生まれるまで自分のお腹のポケットで子どもたちを守ります。

性別役割分業



**ぼくのママはうんてんし**  
おおも やすお(作)  
福音館書店

のぞむの家族は4人家族。電車の運転士のママ。看護師のパパ。のぞむと、妹のあゆみは保育園に通っています。もうすぐママの誕生日。のぞむは鉄橋の上からママの誕生日をお祝いすることを思いつきますが…。仕事をするお母さん、お父さんの様子が同時進行で描かれています。

道を切り拓いた実在の女性たち



**世界を変えた100人の女の子の物語**  
エレーナ・ファヴィツリ(著)、フランチェスカ・カヴァッロ(著)  
芹澤 恵(訳)、高里 ひろ(訳)  
河出書房新社

世界には様々な分野で個性を伸ばし、活躍してきた女性があります。それぞれの子どもの好きなことや関心を持っていることに合わせて、どのページからでも読み聞かせをしてあげてください。

性教育、性暴力



**プライベートゾーン教育のための絵本 おしえて! くもくん プライベートゾーンってなに?**  
MASUMI(企画)、サトウミユキ(制作)、小笠原 和美(監修)  
東山書房

長年性犯罪被害者支援に取り組んできた監修者。加害者も被害者も傍観者もつからないために、子どものうちから正しい知識を身につけられるように制作。「プライベートゾーン」の知識が自分を守る力になります。

性教育、性暴力



**いや!というのはどんなとき?**  
きたざわ きょうこ(作)、はせがわ みずよし(絵)  
アー二出版

子どもたちが性暴力被害をはね返せるように、勇気をもって「いや」と言えるように。性教育に取り組んできた作者が、幼稚園・保育所や低学年の子どもに伝えてきたお話。おとなに向けてのメッセージも。

多様な家族



**いろいろ いろんな かぞくのほん**  
メアリ・ホフマン(著者)、ロス・アスキス(絵)  
杉本 詠美(訳)  
少年写真新聞社

「かぞくの かたちは いろいろ くらしかたもいろいろ きみのかぞくと にているところは あるかな?」

多様な家族(養子縁組)



**ねえねえ、もういちどききたいな わたしがうまれたよのこと**  
ジェイミー・リー・カーティス(作)、ローラ・コーネル(絵)、坂上 香(訳)  
偕成社

わたしが生まれた時、パパとママは急いで準備して、飛行機に飛び乗ったんだって。もう一度聞きたいな、パパとママがわたしと初めてあった日のこと。わたしたちが初めて家族になったあの夜のこと。

ステップファミリー



**パパのカノジョは**  
ジャニス・レヴィ(作)、クリス・モンロー(絵)、MON(訳)  
岩崎書店

すごくカッコ悪いパパのカノジョ。でも今までのカノジョとはちょっと違う。あたしの秘密は秘密にしておいてくれるし、かけっこの時なんて、ゴールですと待っててくれる。あれ?実はいいセンってるのかも、この彼女。

子育て、親子



**おやおやじゅくへようこそ**  
浜田 桂子(作)  
ポプラ社

「おやおやじゅく」は親が通う塾です。親たちも子どもたちと愉快地暮らすために勉強しなくちゃ。もちろん先生は子どもたち。最後のドリルは難しいですよ。親子で一緒に考えてみましょう。

自分らしさ



**わたしはあかねこ**  
サトシン(作)、西村 敏雄(絵)  
文溪堂

「しろねこ」と「くろねこ」の間に生まれた5匹の兄妹。その中に1匹だけ生まれた「あかねこ」。どうにかして「あかねこ」を自分たちの色にしたいと思う家族だけど、自分らしくいたい「あかねこ」は「自分らしさ」を探して家を出ます。

自分らしさとジェンダー



**ウソつきなチルル姫**  
松井 つかさ(絵)、星色スプーン(文)  
郁朋社

チルル姫は何を言われても「ハイ」と答えなければいけないと教えられてきました。でも…「ウソつきはもうイヤ!」イヤなことは「イヤ」といい、自分の幸せをつかんでいく様子は、「みんなと同じ幸せ」でなくてもいいと教えてくれます。

LGBT/SOGI、多様性



**マチルダとふたりのパパ**  
メル・エリオット(作)、三辺 律子(訳)  
岩崎書店

パールは転校生のマチルダと仲良しになります。二人のお父さんがいるマチルダ。ある日、マチルダのお父さんから夕食に招待されたパール。ドキドキしながらマチルダの家に遊びに行きますが、そこで目にしたのは、自分たちの家と全然変わりのない生活でした。

LGBT/SOGI



**ふたりママの家**  
パトリシア・ボラッコ(著・絵)、中川 亜紀子(訳)  
サウザンブックス社

ママが2人、子ども3人のにぎやかな家族。性格も職業も違う2人のママは地域のひとたちからも愛されています。ほんの一人厳しいまなざしを向ける人以外は、3人の養子のうちの一人の視点から描く家族の暮らしと歴史。

LGBT/SOGI



**くまのトーマスはおんなのこ**  
ジェンダーとゆうじょうについてのやさしいおはなし  
ジェシカ・ウォルトン(作)、ドゥーガル・マクファーソン(絵)、かわむら あさこ(訳)  
ポット出版プラス

くまのトーマスは、女の子になりたいという思いを友達のエロールに勇気を出して伝えました。「大事なのはきみが友達だっことさ」と話すエロール。トランスジェンダーの父親もつ作者が自身の子どもの読み聞かせるために作った絵本。

LGBT、自分らしさ



**ジュリアンはマーメイド**  
ジェシカ・ラブ(文・絵)、横山 和江(訳)  
サウザンブックス社

おばあちゃんのスイミングの帰り、マーメイドの格好をしたお姉さんたちと会ったジュリアン。ジュリアンはおばあちゃんに打ち明けます「ぼくもマーメイドなんだ」。好きなことを好きな人に受け入れてもらえる幸せが、美しい絵で語られています。

自分らしさとジェンダー



**アリーテ姫の冒険**  
ダイアナ・コールズ(著)、ロス・アスキス(絵)  
グループ ウィメンズ・プレイス(訳)  
公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会(監訳)  
大月書店

アリーテ姫はかしくて勇気のある女王様。父王と魔法使いの策略に勇敢に立ち向かいます。子どもがいつか壁にぶつかった時に、楽しみながら困難を乗り越え、自ら人生をきりひらく勇気を与えてくれます。

カラーで大きな挿絵と共に楽しめる絵本版は、愛媛県立図書館、松山市立中央図書館で借りることができます。挿絵は、女性グループが布絵で制作しています。〔絵本 アリーテ姫のぼうけん〕ダイアナ・コールズ【原作】ロス・アスキス【原画】グループ ウィメンズ・プレイス【訳・布絵本製作】松本路子【布絵本撮影】スタジオ・トラミーケ 笠井亜子【アート・ディレクション】学陽書房

コムズのホームページにはこちらに掲載した

以外にもさまざまな

絵本を紹介しています。

ぜひ、ご覧ください。





子どもと一緒に過ごす時間

# おともに絵本はいいかが？

各分野の専門家の方に、  
絵本の楽しみ方をお聞きしました。

## 多様な個性を描く 絵本との出会い

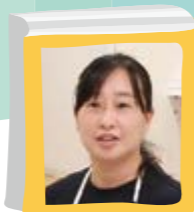
自分や周りの人々の性別を理解し始める幼児期には、その社会の「ジェンダー・ステレオタイプ」（女性とはこういうもの、男性とはこういうもの、という枠組み）とこれに沿った自分への期待を理解し始めます。一方で、子どもたちはいろいろな人や情報に触れることで自分や他者に対する柔軟な理解もすることができます。絵本・おもちゃのような児童文化財や周囲の大人の言動などが子どものジェンダー形成に影響を及ぼすことが知られており、近年では、絵本についても、ジェンダーに敏感な視点で捉えたり、新たな作品が生み出されています。

一人一人の「自分らしさ」と期待される「女らしさ・男らしさ」のギャップは、個人差はあるものの、幼児期に始まり、生涯にわたりさまざまな形で生じると考えられます。絵本の中にも、このギャップに葛藤を感じたり、それを乗り越えていく登場人物を見ることができます。今回紹介された絵本には、多様な大人と子ども、家族の姿が描かれており、読者には様々な感想が生まれると思いますが、「自分らしく」生きようとするのを肯定し、応援するメッセージを受け取れるのではないのでしょうか。絵本と子どもとの出会いにかかわりながら、大人もまた、改めて自身を見つめる機会にできたらと思います。



愛媛大学 教育学部 教授  
金子 省子さん

新潟県出身。お茶の水女子大学大学院修了後、1985年より愛媛大学教育学部教員。愛媛大学では保育の分野やジェンダーに関する科目等を担当している。現在、愛媛県子ども・子育て会議委員。



絵本専門士  
渡部 愛さん

愛媛県内の図書館や児童館、保育所、幼稚園、小中学校等で、子どもたちに読み聞かせやブックトーク等の読書支援活動を行う。はじめての絵本講座、読み聞かせボランティア養成講座講師。

## 絵本から見える、 “幸せ”のかたち

好きなものは「好き」と胸を張って言えること。自分の好きなものを、大好きな人が受け入れてくれること。そばにいる誰かと「楽しいね」と笑いあえること。好きな人と「大好きだよ」と伝え合えること。今回選んだ絵本には、そんな幸せがぎゅっと詰まっています。

絵本の中には、いろいろな家族の日常が描かれています。その“毎日”は、もしかすると子どもたちが知っているものと違っているかもしれません。絵本の中に描かれる、それぞれの家族の“あたりまえ”を、子どもたちは、絵本を通して知り、理解し、そこにあるそれぞれの幸せを感じてくれることと思います。

絵本『おやおやじゆくへようこそ』の中で、子どもたちが自分の両親にこう伝える場面があります。「おやの おしごとは、こどもの はなしを きくこと。こどもに おはなしを してあげることです」どうぞ、絵本を真ん中に、語らいの場を設けてください。そして、「あなたの、そのまんまが大好きだよ」と伝えてください。誰かに、「ありのまま」を受け入れてもらい、大切にしてもらうことは、本当に心地よく、幸せなことですから。

## 絵本は「心の栄養」です！

私は、大学で、司書教諭資格を取るための授業を受け持っています。司書教諭は、学校図書館を中心となって運営する先生です。1回目の授業で、心に残る本について尋ねてみました。家族に何度も読んでもらった、担任の先生に薦めてもらった…。いろいろな思い出があるようです。ある学生が「その本は新しい自分を教えてくれた」と話してくれました。

「本は心の栄養」と言われます。本を読むことで、使ったことのない言葉や新しい知識、知恵が増えていきます。読みながら、主人公の生き方に元気や勇気をもたらったり優しい気持ちになったり…。いろいろな人の考えに触れることも、将来の夢を描くこともできます。読み終わったときには、ちょっと成長した自分になった気がします。

読書は本来楽しいものですが、本を楽しむということはそう簡単なことではありません。読書は、文字で書かれた言葉を映像化してそれを連続させる、言うならば頭の中でお話の動画を作っているようなものです。言葉のイメージができて大人にとってはたやすいのですが、体験の少ない小学校低学年くらいまでの子どもには難しい作業です。でも、絵本にはそれを手助けしてくれる挿絵があります。

私は、子どもが本好きになるよい方法は、絵本の読み聞かせだと思っています。読み聞かせをする側にとっても絵本は「心の栄養」となります。みなさんも、家族で食事を楽しむように、お子さんと一緒に絵本を楽しんでみませんか。



元小学校校長  
元愛媛県立図書館係長  
田中 ひとみさん

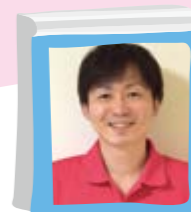
松山市内の小学校に長く勤める。その間に、4年間、愛媛県立図書館で子どもの読書活動の啓発に取り組んだ経験がある。現在は、小学校や大学で非常勤講師をしている。

## 子ども時間を 自分らしく過ごすために

新玉児童館では、親子が絵本にふれるきっかけづくりの一つとして、親子体操や様々なイベントの中で絵本や紙芝居などの読み聞かせを行っています。ページを1枚めくるたびに、驚きや喜びの気持ちを親子で共有している姿は見ていて微笑ましく、こちらも嬉しくなります。子どもの心を豊かにする絵本は、子どもと親の心をつなぐ最良のツールの一つだということを日々の来館者とのかかわりの中で感じています。

児童館は、遊びを通じた健全育成を行っています。子どもにとっての遊びは、最も自主的で自発的な活動であり、遊びへのかかわり方は子ども自身が決めることができるものです。0歳から18歳までの子どもが自由に利用できる場所であるため、館内にある図書やおもちゃはさまざまな年齢の子どもが楽しめるものを準備しています。子どもが「読みたい!」、「遊びたい!」と思った時、性別や年齢に関係なく誰でも手に取ることができます。

子どもたちは一人ひとり違います。違っていいし、違うからこそいい。子どもが子どもらしく、そして自分らしく過ごすことができるように、子どもたちの近くにいる我々大人たちが一番の理解者であり、支援者であり続けたいですね。



社会福祉法人  
松山市社会福祉事業団  
松山市新玉児童館  
山下 順平さん

愛媛県松山市出身。児童厚生1級特別指導員。2児の父。大学生の時に、児童館のイベントにボランティアとして参加して以来、児童館の魅力にどっぷりとはまり現在に至る。遊びを通じた子どもたちの健全育成を支援する傍ら、我が子の入学を機に小学校での読み聞かせボランティアにも参加している。

# コムズに遊びに行こう!

コムズには、新玉児童館やキッズスペースのある図書室があり、隣には公園もあります。  
親子で過ごすのにピッタリの施設です♪



## 子どもと一緒に、日々の息抜きタイム♪ コムズおはなし会

コムズでは、乳幼児と保護者を対象にしたおはなし会を開催しています。絵本の読み聞かせ、パネルシアター、手あそびなど盛りだくさんの内容です。  
コムズで貸出中のおすすめ絵本もご紹介!

【読み手】LAひとさん

子どもたちによりよい読書環境を提供したいという目的で結成した集まりで、学校・幼稚園・児童クラブなど、さまざまな場所で読み聞かせやおはなし会を行っています。



おはなし会について詳しくはこちら▶



## ACCESS



図書コーナー

〈開館時間〉 \*毎月第3金曜日はお休み  
火～土 9:00～20:30  
日・祝日 9:00～17:00



COMSホームページ



Facebook



MAP

松山市駅より徒歩10分

※駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。



図書室



ベビースペース

## 松山市新玉児童館

〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目4-20(コムズ1階・2階)

〈開館時間〉【4月～9月】9:00～18:00

【10月～3月】9:00～17:30

〈休館日〉毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日  
TEL. 089-943-5801 FAX. 089-931-5756



新玉児童館ホームページ



Twitter



Instagram